



飯 山 市 長 殿

平成 21 年 12 月 18 日

千曲市大字戸倉 2362-4

グリーンテック樹林

樹木医 登録番号 275

田 村 宏 平



### 城山公園の桜等の樹木に関する見解

平成 21 年度桜樹勢回復の診断を行いました。城山公園における樹木全般につき樹木医としての見解を以下に申し述べます。

#### 1 サクラ (ソメイヨシノ)

##### (1) 植栽

①サクラとサクラとの間隔は一般に 12 m (半径 6 m) 以上必要であると言われており、15 ～ 16 m (半径 7.5 ～ 8 m) 程度あれば、サクラを管理する上での作業も容易になると考えます。なお、千曲川堤防に植栽してあるサクラの間隔は 15 m であるとの聞き取りですので、今後サクラを管理する上では 15 m が適当な間隔であると思われます。

②老木を伐採 (伐根) して新たにサクラを植栽した場合、現状では生長不良により健全に育つのは困難な状況が予想されます。なぜなら、サクラが育つ土壤に問題があるためです。これはいわゆる忌地現象 (連作障害) と言われ、サクラにとって有効な肥料やミネラル成分の不足、根系微生物の衰退、根系有害菌の増殖等による生育阻害が出現するものです。

③老木の多くは地際付近から新たに細い若木 (ひこばえ) が数本育っています。そのうちの最も大きい若木を育てることがサクラの世代交代を促進させる上で有効な方法であると考えます。新規に植栽した場合よりも老木の生命力によって世代交代を果たし樹勢回復した例が多く見受けられます。

④老木の中で樹勢が衰え若木 (ひこばえ) も育たない場合は伐採・伐根し、土の入れ替えや消炭、腐葉土、堆肥等の混合土を用いて土壤改良を施し、新規に植栽する方法が考えられます。

⑤サクラとサクラとの間には高中低木類の樹木や他樹種を植栽しない方が良いでしょう。

しょうが、草本類は景観上根元廻りや株間に植える必要がある場合も考えられます。

## 2 サクラの特性

①サクラは単独を好みます（モミジ類やナツツバキ等の他の樹種においては同種が近くにあると良好な生育を示す樹種も多く存在します）。

②サクラは照度（陽光）100 %と言われるほど日光を大変好みます。

③サクラの根は普通の状況下においては地下 15 ～ 30 cm 程度の間で養水分を得ているため酸素を含んだ地層に浅根傾向で横方向（水平方向）に伸びています（ケヤキも同様）。

④街路樹としてサクラを植える場合は根が横に伸びる性質があるため、道路や歩道面との距離を離すか、土中に根が伸長する工法等を考える必要があります。そうした処置をとらない場合、サクラの根が歩道や道路のアスファルトを隆起させる可能性が高まります（ケヤキも同様）。

⑤前述の通り、サクラは根が横に伸びるため法面緑化樹としてサクラ堤が有名ですが、これは土留めの役割も果たします。

⑥ソメイヨシノの寿命は短命であると言われ、植栽後 30 年程度まで勢いが良く花も立派に咲いてくれますが、その後は漸次衰退傾向を辿り、概ねその寿命は 60 年程であると考えられています。しかしながら、管理次第ではサクラの寿命が大幅に伸びる事例もあります（例えば弘前公園）。

## 2 城山公園（飯山城址）の樹木

### (1) サクラ

①二の丸東側のサクラの枝葉はとりわけ上方に伸びています。本来、サクラ（ソメイヨシノ）の枝は横に伸びる性質を有していますが、これは隣接するサクラとの距離（株間）が狭いため、陽光を得るために上へ上へと伸びているものと考えられます。こうした状態はサクラにとって大変なストレスと言えます。

②東側斜面から道路に面した箇所では、サクラとサクラとの間隔が狭く陽光不足により生育状況は思わしくありません。

③市民会館前のサクラは根元付近までアスファルト舗装がなされているため、雨

水や落葉等の土への供給及び養水分不足が懸念されます。当地において仮にアスファルト舗装地面にヒビ割れなどがある場合はサクラの根が隆起していることが考えられ、早急にアスファルト部分を除去し土壌改良を施工することにより土中に根が張れるよう対策をとる必要があります。

④全体的にサクラとサクラとの間隔が狭いため、枝葉は陽光を求めて上方へ伸びています。前述の通り、本来サクラ（ソメイヨシノ）は横張りする特性を有しています。

⑤サクラの樹冠に、おおよそ5年一度は1㎡あたり1～2箇所のタコツボを掘り土壌改良をすることが望ましいと考えます。なお、タコツボには卵殻、消炭、腐葉土、微生物肥料、堆肥等を混合投入します。サクラは「肥料喰い」と昔から言われますので、毎年有機質肥料、緩行性の肥料の施肥は是非とも実施したいところです。

## （2）二の丸西側のヒマラヤスギ

4本あるヒマラヤスギが立地している箇所はヒマラヤスギの特性を鑑みるに、いささかの疑問をもちます。現状ではサクラを含む他の樹種の障害木となっており、また当該スギは近年の外来種であり、歴史ある城山公園（飯山城址）において在来種と共生することには無理があるかと思えます。また、ヒマラヤスギの成長は早く突然倒木する例も報告されており、公園の在来種を保護する意味においても切除する方向でご検討いただきたい樹種です。

## （3）城山公園本丸石段のスギ

本丸に昇る石段周辺のスギが密集しており、根系競合、枝葉競合に起因する大風等によって倒木の可能性があります。早急の間伐処置をお願いします。なお、スギの所有者は葵神社関係者であると聞いております。

## （4）二の丸入口のケヤキ

石段の裏に主根が伸びる樹形ではなく、西側に主根が伸びる樹形であることを鑑みれば、おおよそ20～30年程度の間は石段を壊す可能性が低いと考えられます。

## （5）城山公園の理想的な樹木等

①理想の上ではサクラを主、ケヤキ、モミジを副として灌木類を配置した公園が望ましいのですが、現状においてはまず公園内の樹木の必要本数、樹種の検討といった再考が必要であるかと思えます。

②公園は空地空間がとりわけ大事な要素であり、植樹するだけではなく芝生やクローバー等の緑地空間を作ることが必要です。

③アジサイの植栽については現に植栽してある西洋アジサイでも良いのですが、可能であれば城山公園（飯山城址）近隣の山に自生しているエゾアジサイ、ヤマアジサイ、タニウツギを植えていただいた方が適当であると考えます。

④旧サル小屋前にあるサツキは公園空間を演出するためにも別の箇所へ移植し、広場空間を形成すべきでしょう。

⑤里山にある穀斗類（ドングリ類、オニグルミ等）を子どもが通る場所へ植栽すれば、その実を収穫し遊びに活かす楽しみが広がるのではないかと思います。

⑥城山公園に1～数本は植えてみたい樹種

|                           |               |
|---------------------------|---------------|
| ヤマハギ                      | 野鳥の餌になる       |
| モクゲンジ                     | 実がお数珠になる      |
| シナノキ、ボダイジュ                | 寺院に植えられている    |
| カシワ                       | 世継ぎの木と言われる    |
| カツラ                       | 落葉の香り         |
| ヤマコウバシ                    | 小枝が香る         |
| クヌギ・コナラ                   | カブトムシが好む      |
| ダンコウバイ、アブラチャン             | 初春を告げる花       |
| ヒガンバナ                     | 寺院に植えられている草本類 |
| ヌルデ、ニシキギ、ウツギ、ヤマモミジ、イロハモミジ | 急傾斜地向きの紅葉樹    |

## 5 街路樹

(1) 街路樹には毎年の管理が比較的容易な樹種とそうでない樹種がありますので専門家の意見や地元の理解を基にご検討いただきたく思います（長野県の森林（もり）里親促進事業をご参考ください）。

(2) サクラやケヤキの根は水平に走る性質を有しているため、これに相応の植樹帯があればベストですが、無い場合はアスファルト舗装を隆起させる歩道阻害根になりやすいので、根系が直根になる樹種を検討した上で植栽樹を決定すべきであろうと考えます。

- (3) 仲町交番から愛宕町へ向かう通りのシダレヤナギについては、シダレヤナギの特性上旺盛な生育を示しますので、一般に夏期と秋期における年間2度の剪定が管理する上で必要となります。なお、川水に関連した樹種は水路街路樹としての風情を醸成する樹種を選定されるのが良いかと思います。

## 6 その他

- (1) サクラで町おこしを図る高山村ではサクラの巨木樹勢回復事業に地元住民の多くがボランティアとして参加しています。
- (2) 一般に春の花は地元の住民が、秋の紅葉は旅の観光客が楽しむと言われています。これら樹木が仏都・飯山の心豊かな景観形成の一助になれば、この上ない喜びであると樹木医として感じるところです。

以上